

花時計

文京ふるさと歴史館友の会事務局
(文京ふるさと歴史館内)

令和7年6月27日発行

●文京区の近代建築

坂巻 啓子

25年以上前、文京区内には、足を止めて見とれてしまう「近代建築」と言われる建物が多くありました。

日本の近代建築とは、幕末から第二次世界大戦前の時代に建てられた建築です。欧米の技術や文化が導入された明治時代初期に「建築家」という職業が誕生し、近代建築の歴史が始まりました。日本の建築家たちは西洋からの技術を取り入れながら日本の伝統を様々に折り重ね、建物の近代化を進めて行きました。



写真① 村川邸



写真② 諸井邸

写真①は目白台にある村川邸です。西洋史学者村川堅固氏が1911年に建築、1998年国登録有形文化財として登録、2017年には文京区指定有形文化財となりました。村川邸の特徴は伝統的な2階建ての和風住宅の玄関脇に洋館を配置、間取りの中央に中廊下を配置した住宅形式です。この建築を現在維持して行くのは極めて難しいと思いますが、所有者が大切に使い続けられている努力と姿勢に感服します。(現在公開はされていません。文化財ウィークなどに見学のチャンスがあるかも知れません) 写真②は残念ながら3月に解体されてしまった歴史館隣にあった1906年建築の諸井邸です。写真③は東大正門斜め前にあった本を開いたような素敵な看板建築でこちらも20年以上前になりました。



写真③ ニイミ書房

文京区では1998年「文京・まち再発見—近代建築からのアプローチ」、2005年「武田五一の軌跡—近代建築の好奇心」、2013年「受け継がれた住まい—今に生きる文京の近代建築」と3回近代建築に関する特別展を開催しました。

1998年歴史館で調査したところ文京区内に1,650件を超える建造物が確認されたのですが、15年後の追跡調査の結果ほぼ半減している実情が判明されたということです。それから10年以上経過し今、どれ程の建造物が現存しているのでしょうか。

●「話を聞いて、どうするの」…稲荷社聞き書き調査から

鈴木 純太

「そして、話を聞いてどうするの」聞き書きをする稲荷社を管理する人に話を持ち出すと、始めに尋ねられる言葉だ。

文京区文化財保護係から頂いた稲荷社一覧表には70社ほどの稲荷社名が記載されている。その中で、存在の無い稲荷社がすでに13社あるが、ビル新築により稲荷社を返納したのがほとんどで、他には聞き取りを拒否された場合もある。

そこで、現存して人口に膾炙されている稲荷社から調査が始まった。根津神社の「乙女稲荷」は、お社の参道にたくさんの鳥居が立ち並び、参拝する人が切なる願いを込めての建立だ。だが、ご祭神はおあなの奥に祀られて、お姿は見えない。それでも多くの人たちが熱心にお祈りしている。隣接する「駒込稲荷」は徳川6代将軍家宣の父、綱重の山手屋敷の邸内社で、世の中の安定を願うのだろう。氏子組織の講があり初午と5月3日に神事が行われる。美しい名称を持つのは他にも多くあるが、「花姫稲荷」湯島は、境内に近年マンションが建設されると、同建物の敷地内に稲荷社は遷座されたが通行人が時々お参りしている。「妻恋神社」は日本武尊が亡き妻、弟橘媛姫を慕った伝承に、今でも多くの人の参拝がある。空襲時に焼失、以前からの氏子町の同朋町に一時遷座した後、現在は同朋町会の一部、妻恋神社崇敬会50人ほどが氏子となり、3月10日前後の日曜に例大祭を催行。町会では猫祭りキャンペーンが行われ、神社は猫の御朱印を頒布して町会の行事を応援している。町の行事と一緒に活動する稲荷社は意外と多くある。



乙女稲荷

本郷通り法真寺近くの路地を入った奥に「藤之森稲荷神社」がある。神社近くのM氏が路地の両脇地域を所有していたが、5月5日に大人達、子供と一緒に神社のお祭りをしている。地元では、賑やかで楽しみにしているお祭りとなった。

帰化系人秦氏がイネの豊作を願った稲荷社が、現代までの間に、稲荷社の形態、ご祭神、ご利益や信仰する人々の祈りや願い事も様々に変化してきたが、私たちは現在の状況を記録に残しておきたい。それが「そして、話を聞いてどうするの」の返事である。

友の会の歩み 令和6年度

■定期総会・記念講演会 参加者81名

4月25日(木)

「藤沢周平作品に描かれた風景」

講師：山本陽史氏(山形大学名誉教授)

■第1回史跡巡り 参加者60名

5月30日(木)

「田園調布の亀甲山古墳(多摩川台古墳群)を歩く」

■第2回史跡巡り 参加者57名

6月27日(木)

「区境散歩～藍染川を辿り駒込駅まで」

■講演会 参加者47名

9月26日(木)

「日本の南極観測隊の歴史」

講師：佐藤夏雄氏(国立極地研究所名誉教授)

■第3回史跡巡り 参加者58名

10月24日(木)

「戸山公園から大久保コリアンタウン探索」

■バス見学会 参加者43名

11月28日(木)

「山梨県甲州市～樋口一葉のルーツ巡り旅」

■第4回史跡巡り 参加者59名

12月24日(火)

「永井荷風の文京区の歩き方」

■第5回史跡巡り 参加者67名

1月5日(日)

「亀戸七福神巡り」

■講演会 参加者61名

2月18日(火)

「六義園の構成と特徴」

講師：藤井英二郎氏(千葉大学名誉教授)

■第6回史跡巡り 参加者63名

3月27日(木)

「板橋～王子まで石神井川の桜並木を歩く」

その他「友の会だより」年3回発行、増刊号「花時計」年1回発行、役員会月1回開催、文京まち案内(年14回)、館主催史跡巡り4回実施、生涯学習フェア展示参加(会員募集等)



史跡めぐり



バス見学会



歴史講演会

友の会へのお誘い

友の会会員になると、文京ふるさと歴史館の入館料が免除になります。また、歴史館の特別展・歴史講座等事業のご案内をお届けします。

さらに、友の会では独自の活動として文化財や博物館の見学会や史跡巡り、講演会、会員の研究発表などを行っています。

また平成22年度には、永年にわたる活動が評価され、「生涯学習事業関係団体」として文京区区政功労者表彰を受け、区長より表彰状と銀杯が授与されました。

文京区民はもちろん、区外の方でも入会できます。会費は年間1,500円、行事に参加するときは実費を徴収させていただきます。詳しくは、友の会事務局までご連絡ください。

【連絡先】〒113-0033 東京都文京区本郷4-9-29
電話03(3818)7221
文京ふるさと歴史館内 友の会事務局

「文京まち案内」へのお誘い

文京ふるさと歴史館友の会ボランティアガイド「文京まち案内」は、平成11年に発足しました。「文京区の良さを伝えたい、地域のために役に立ちたい」というのが結成の目的です。ガイドの依頼は各地からあり、少人数のグループから50人を超える団体まで、さまざまな依頼に対応しています。

文京を訪れたい、文京のまちを歩きたい、歴史や文化をもっと知りたいと思ったとき、ぜひ「文京まち案内」をご利用ください。

また、文京区の歴史に興味がある方、歩くのが好きな方、人との出会いを楽しみたい方、「文京まち案内」に入ってみませんか。メンバーは現在15名。初めての方でも自主研修会に参加し、経験者と組んで案内するうちに知識や身につくので心配ありません。自分の勉強にもなりますし、終わった時、先方が満足し感謝していただければ最高の喜びです。意欲のある方は、ぜひ友の会事務局までお問い合わせください。